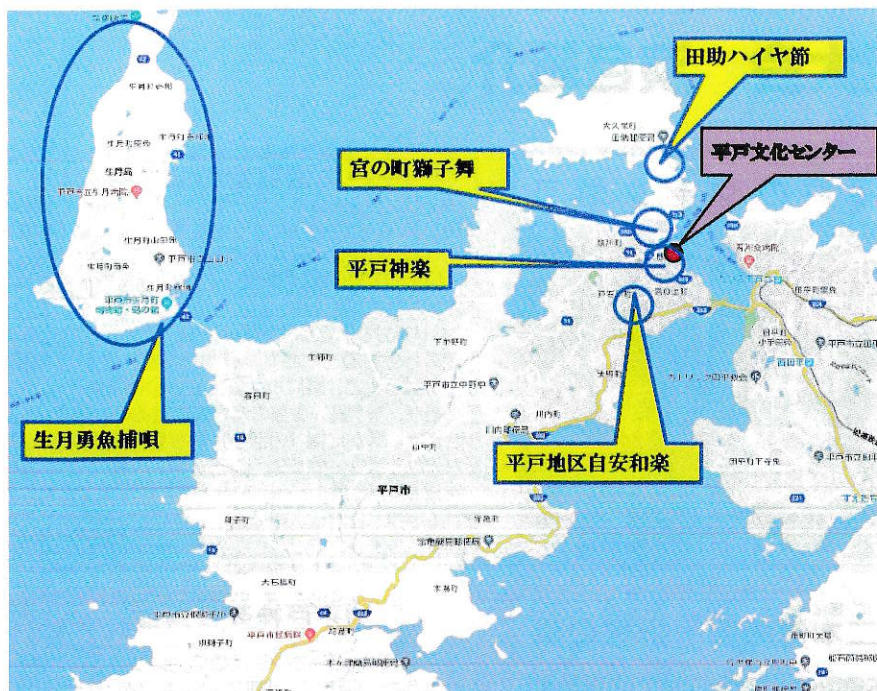




伝承芸能大会プログラム

	時 程	内 容	摘 要	備 考
	13:00～13:30	受 付		
	13:30～13:50	開 会 行 事	会長あいさつ、来賓祝辞	20分
1	14:00～14:15	演 目	いきつきいさなとりうた 生月勇魚捕唄 (1番唄・2番唄・3番唄)	いきつきいさなとりうたほぞんかい 生月勇魚捕唄保存会 15分
2	14:15～14:30		みやのちょうし 宮の町獅子舞	みやのちょうしほぞんかい 宮の町獅子舞保存会 15分
3	14:30～14:45		ひらど 平戸のジャンガラ	ひらどちくじやんがらほぞんかい 平戸地区自安和楽保存会 15分
	14:45～15:00		(休 憩)	(15分)
4	15:00～15:15		にほんへい まい 二本幣の舞・折敷の舞	ひらどかべうしんごうかい 平戸神楽振興会 15分
5	15:15～15:30	演 目	たすけハイヤぶし 田助ハイヤ節	たすけハイヤぶしほぞんかい 田助ハイヤ節保存会 15分
	15:40～16:00		閉 会 行 事	賞状授与、閉会あいさつ 20分

子どもの心にふるさとを

2019年度 第41回

長崎県子ども会伝承芸能大会

●と き 2019年9月8日(日)
開演13時30分(開場 13時)

●と ころ 平戸文化センター
平戸市岩の上町1529 ☎ 0950-22-5300

開会行事

- 1 開会のことば
- 3 県子連
会長あいさつ
- 4 来賓祝辞
・長崎県教育委員会
・平戸市教育長



(一財)長崎県子ども会育成連合会
友情・奉仕・鍛錬

閉会行事

- 1 賞状ならびに
記念品贈呈
- 2 講 評
- 3 開催地
会長あいさつ

主催：(一財)長崎県子ども会育成連合会 平戸市子ども会育成連絡協議会

共催：平戸市教育委員会

後援：長崎県教育委員会 長崎県青少年育成県民会議 長崎新聞社 NHK 長崎放送局
NBC 長崎放送 KTN テレビ長崎 NCC 長崎文化放送 NIB 長崎国際テレビ

入場無料

長崎県子ども会伝承 芸能大会 演目紹介

長崎県子ども会伝承芸能大会は、1979年（昭和54年）に始まり、本年度で41回目を数える長崎県子ども会育成連合会の事業です。

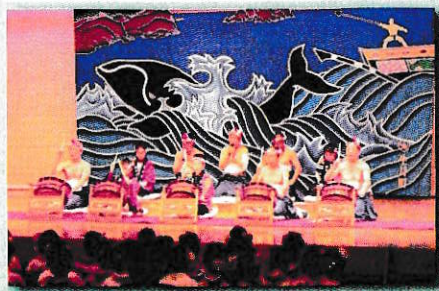
開催にあたっては、地元平戸市子ども会育成連絡協議会ならびに平戸市教育委員会・平戸市文化交流課の多大なご支援とご協力をいただきました。

この大会は、発表をとおして子どもたちに伝承芸能を継承しようとする自覚と意欲を高め、子ども会活動の振興と発展に寄与するとともに、鑑賞いただく大勢の方々に伝承芸能継承への認識を新たにさせていただこうとするものです。

本年度の第41回大会は平戸市での開催となり、平戸市内から5団体が発表します。これまでの練習の成果をご鑑賞いただき、熱演された皆さんに、賞賛と励ましの大きな拍手をおくってくださいますようお願いいたします。

出演団体には、長崎県子ども会育成連合会より、賞状と記念品を贈ります。

1 いきつき いさな とり うた 生月勇魚捕唄 (1番唄・2番唄・3番唄)



代表者 近藤 芳人

いきつきいさなとりうた ほぞんかい 【生月勇魚捕唄保存会】

生月勇魚捕唄は、生月島を拠点として江戸時代後期に日本最大の規模を誇った鯨組・益富（ますとみ）組の操業の中で唄われた鯨唄の総称です。益富組の本拠地だった生月町壱部浦（いちぶうら）で伝承され、昭和40年には保存会が結成されています。また、昭和53年1月14日、平戸市（旧生月町）の無形民俗文化財に指定されました。捕鯨が行われていた頃は、操業の始まりと終わり、正月などに唄と踊りが披露されていましたが、近年は、正月2日の「叩き初め」で益富家や神社などで奉納披露しています。締太鼓（しめだいこ）を早いテンポで連打しつつ口説かれる唄は、鯨に立ち向かっていく際の闘争精神を再現したかのように勇壮なものです。日本における代表的な鯨唄として高い評価を受けていることから、全国各地で数多くの公演を行っており、児童生徒の継承活動にも力を入れています。

2 みや ちょう し まい 宮の町獅子舞



代表者 田中 孝典

みや ちょうし し まい ほぞんかい 【宮の町獅子舞保存会】

宮の町の獅子舞は、大正時代に町内の旅館に宿泊した讃岐の旅芸人が、当時の青年会の若衆に伝授したものとわれています。

ポピュラーな越後獅子の音楽を、三味線、太鼓で演奏しているのが特徴で、下町的な情緒をかもしています。

牡丹に遊ぶ獅子の姿を、花1名、獅子2名を一組として、多頭数で踊る姿は勇壮華麗です。

毎年10月、亀岡神社の例大祭の折に奉納踊りとして披露されているほか、地域のイベント出演などにより、地域の活性化や青少年の健全育成に寄与しています。

3 ひら と 平戸のジャンガラ



代表者 村瀬 和男

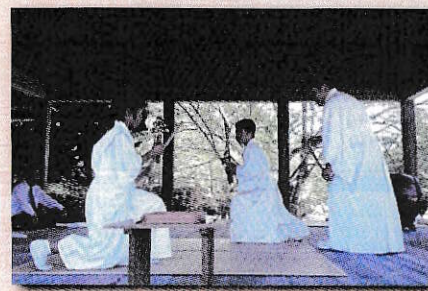
ひらとちくじゅんがらほぞんかい 【平戸地区自安和楽保存会】

平戸のジャンガラは、江戸時代初期にはすでに奉納されていた記録がありますが、その起源については定かではありません。近世には平戸藩の手厚い保護を受け、現在は8月11日から18日にかけて、市内9地区で奉納されています。

「ジャンガラ」という名称は、鐘（かね）と太鼓の音から定着したものといわれ、華やかに飾った花笠を頭にかぶった踊り手と、腰に小太鼓を結びつけた囃子（はやし）手の組が、笛や鉦、太鼓の音が響き渡る中を軽やかに踊り歩きます。ほかに幟（のぼり）持ちや総代が付き、9地区それぞれで踊り・構成などにいくつかの違いがあります。

平成9年12月15日に国の重要無形民俗文化財に指定されており、各神社仏閣に踊りを奉納し、雨乞いや五穀豊稔を祈願します。

4 にほんへい まい おしき まい 二本幣の舞・折敷の舞



代表者 木田 昌宏

ひらと かぐらしんこうかい 【平戸神楽振興会】

平戸神楽は、松浦家29代鎮信（しげのぶ）（天祥（てんしょう））の時代に、神職で国学者であった橘三喜（たちばなみつよし）が、正保年間（1644～1648）に全国各地の一の宮を巡拝して調査研究を重ね、24番におよぶ平戸神楽を完成させたと伝えられています。全24番は、亀岡神社の秋季例大祭（れいたいさい）（10月26日）でのみ奉納されています。

昭和62年1月8日、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

毎年夏休み中に、神職の子どもを中心に平戸神楽後継者育成講習会を開催しており、幣束（みてぐら）を立て神の降臨を祈る二本幣と、曲芸的な技で神の御心を和め奉る折敷の舞が立派に継承されています。

5 た すけ ぶし 田助ハイヤ節



代表者 磯本 重明

たすけ ぶし ほぞんかい 【田助ハイヤ節保存会】

田助ハイヤ節は平戸市北部の田助（たすけ）地区に伝わる民俗芸能で、「ハイヤ」の語源については、北に上る船が待つ「南風（はえ）」が変化したものではないかとされています。

江戸時代、田助港が風待ち潮待ちの港として栄え、その船乗りたちが船宿で即興的に演奏し歌われたのが始まりとされています。太鼓と三味線による軽快なリズムに合わせ、両手に重ねた皿を鳴らしながら踊ります。各地のハイヤ系民謡の元になったものとされ、平成20年2月22日に長崎県の無形民俗文化財に指定されました。

昭和42年から保存会が結成され、地域の学校でも練習が行われるなど、保存継承が図られています。